

北海道胆振東部地震災害派遣と連隊の即応態勢

1 北海道胆振東部地震に対する北部方面隊の災害派遣活動

平成30年9月6日03時08分頃、北海道胆振地方中東部を震源とする地震（M6.7）が発生し、胆振地方中東部で最大震度は7であったと判断されました。

被害にあわれた方に対し、お見舞い申し上げます。

地震発生に伴い6日（木）06時00分、北海道知事から第7師団長に対し災害派遣が要請されています。

これに先立ち北部方面隊は、地震発生後03時39分、状況把握と連絡態勢確保するため、北海道庁に連絡幹部2名を派遣。

航空部隊は、航空自衛隊のF-2×2機が03時25分、陸上自衛隊のUH-1×1機が03時40分、情報収集のため離陸。

地上部隊は、第73戦車連隊（南恵庭）のFAST-Force（人員約35名、車両約5両）が03時40分に駐屯地を出発。

じ後逐次活動を拡大し、9月8日（土）10時現在、北部方面隊を主体に約24,000名の自衛官が災害派遣活動を行っています。

2 第16普通科連隊の即応態勢

陸上自衛隊は、災害に即応するよう、FAST-Forceを指定しています。

今回の北海道地震でも、道知事からの災害派遣要請を待つことなく、この部隊が出動しています。

第16普通科連隊は、対馬を除く長崎県の災害派遣を担任しています。そのため担任する地域において災害が発生した時に即応出来るよう常にFAST-Forceを指定しています。

北海道の災害に対し、我々も応援に駆け付けたいところではありますが、担当する地域の災害や防衛に対しても備えが必要です。

我々は、常に即動出来るよう準備しています。

第16普通科連隊長兼大村駐屯地司令
南野 延寿

1等陸佐